

令和元年度病害虫発生予察予報第5号（8月）

令和元年8月6日
高知県病害虫防除所

《予報の概要》

作物名	病害虫名	予想発生量※
水稲（普通期稲）	いもち病（穂いもち） 紋枯病 ごま葉枯病 ツマグロヨコバイ セジロウンカ トビイロウンカ ヒメトビウンカ 斑点米カメムシ類	平年並（東）、やや少（中央）、少（中西、西） <u>多（西）</u> 、少（東、中央、中西） やや少（西）、少（東、中央、中西） <u>多（中西）</u> 、やや少（中央、西）、少（東） <u>多（西）</u> 、 <u>やや多（中央）</u> 、平年並（中西）、少（東） 少（県下全域） <u>多（西）</u> 、 <u>やや多（中央）</u> 、平年並（中西）、少（東） <u>多（県下全域）</u>
かんきつ類（温州みかん）	そうか病 黒点病 かいよう病 ミカンハダニ	平年並（中央） 平年並（中央） 少（中央） 多（中央）
かんきつ類（中晩柑類）	そうか病 黒点病 かいよう病 ミカンハダニ	<u>多（西）</u> 、やや少（東、中西）、少（中央） <u>やや多（中西）</u> 、平年並（中央）、やや少（東）、少（西） <u>多（東、中央）</u> 、少（中西、西） <u>多（中央）</u> 、平年並（東、中西）、少（西）

※ （ ）内の表記 東：県東部、中央：県中央部、中西：県中西部、西：県西部

I 気象予報（高松地方気象台 8 月 1 日発表）

＜特に注意を要する事項＞ 8 月 3 日から 9 月 2 日
期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。

＜予想される向こう 1 か月の天候＞

平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

向こう 1 ヶ月の平均気温は、高い確率 60% です。日照時間は、平年並または多い確率ともに 40% です。

週別の気温は、1 週目は、高い確率 80% です。2 週目は高い確率 50% です。3～4 週目は平年並または高い確率ともに 40% です。

＜向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）＞

期間	対象地域	要素	低い(少ない)		平年並	高い(多い)
1 ヶ月	四国地方	気温	10	30	60	
		降水量	30		30	40
		日照時間	20	40		40

＜気温経過の各階級の確率（%）＞

期間	対象地域	低い		平年並	高い
1 週目	四国地方	10	10	80	
2 週目		20	30	50	
3～4 週目		20	40	40	

＜予報の対象期間＞

1 ヶ月：8 月 3 日（土）～9 月 2 日（月）

1 週目：8 月 3 日（土）～8 月 9 日（金）

2 週目：8 月 10 日（土）～8 月 16 日（金）

3～4 週目：8 月 17 日（土）～8 月 30 日（金）

II 病虫害発生予想

1 水稻（普通期稲）の病虫害

1) いもち病（穂いもち）

予 想 発生量：やや多（東部）、やや少（中央部）、少（中西部、西部）

根 拠

(1) 7 月の調査では、葉いちは県下全域で発生が確認されているものの、発生面積は県東部で平年よりもやや多く、中央部で平年よりもやや少なく、中西部、西部で少なかった。また、発生程度は全般的に平年以下であった。

(2) 8 月の気温は平年よりも高く、降水量は多い確率がやや高いと予想されているため、葉いもちの発生ほ場を中心に発生すりと見込まれるものの、晴れの日が多いと予想されていることもあり、発生はあまり多くはならないと考えられる。

対 策

(1) 出穂前に進行型病斑を認めたら、速やかに薬剤防除を行う。

- (2) QoI剤耐性菌の発生を防止するため、使用回数は作期を通じて1回とする。
- (3) 窒素過多は発病を助長するので、穂肥等の施用は生育状況を見ながら適切に行う。

2) 紋枯病

予 想 発生量：多（西部）、少（東部、中央部、中西部）

根 拠

- (1) 7月の調査では、県西部のみで発生が見られ、発生面積は平年よりも多かった。
- (2) 本病は高温、多湿条件で発生が助長される。8月の気温は平年よりも高く、降水量は多い確率がやや高いと予想されていることや幼穂形成期を過ぎるとイネの抵抗力が低下することから、既発生地を中心に病勢が進展すると考えられる。

対 策

- (1) 止葉まで発病すると稔実が悪くなり、減収するので、発生の多いほ場では穂孕期～穂揃期に薬剤防除を行う。

3) ごま葉枯病

予 想 発生量：やや少（西部）、少（東部、中央部、中西部）

根 拠

- (1) 7月の調査では、県西部のみで発生が見られ、発生面積は平年よりも少なかった。
- (2) 本病の発生は、肥切れによって助長される。8月の気温は平年よりも高く、日照時間は平年並または多いと予想されているため、稲の生育は旺盛となり発病がやや増加すると考えられる。

対 策

- (1) 穂軸、枝梗に発生すると穂枯れを生じるので、発生の多いほ場では穂孕期～穂揃期に薬剤防除を行う。

4) ツマグロヨコバイ

予 想 発生量：多（中西部）、やや少（中央部、西部）、少（東部）

根 拠

- (1) 7月の調査では、県東部を除いた地域で発生が見られた。発生面積は中西部で平年よりも多く、中央部、西部は少なかった。また、発生程度が高い地域は見られなかった。
- (2) 8月の気温は平年よりも高く、日照時間は平年並または多いと予想されているため、発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 出穂期から登熟期にかけて密度が高密度になると、実入りが悪化することがあるので注意する。

5) セジロウンカ

予 想 発生量：多（西部）、やや多（中央部）、平年並（中西部）、少（東部）

根 拠

- (1) 7月の調査では、県東部を除いた地域で発生が見られた。発生面積は西部で平年よりもやや多く、中央部で平年並、中西部ではやや少なかった。また、発生程度は各地域とも平年以下であった。
- (2) 8月の気温は平年よりも高く、日照時間は平年並または多いと予想されているた

め、発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 出穂期に吸汁されると黒点米に似た被害粒が発生することがあるので、発生に注意し、高密度になった場合には防除する。

6) トビイロウンカ

予 想 発生量：少（県下全域）

根 拠

- (1) 7月の調査では、発生は見られていない。また、近県でも目立った発生は見られていない。

対 策

- (1) 株元に寄生するので、防除を行う場合は株元に薬剤が十分かかるようにする。

7) ヒメトビウンカ

予 想 発生量：多（西部）、やや多（中西部）、やや少（東部、中央部）

根 拠

- (1) 7月の調査では、県東部を除いた地域で発生が見られた。発生面積は西部で平年よりも多く、中西部で平年並、中央部では少なかった。また、発生程度は西部で平年よりも高く、その他の地域は平年以下であった。
- (2) 8月の気温は平年よりも高く、日照時間は平年並または多いと予想されているため、発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 本虫の吸汁による直接被害は少ないが、縞葉枯病を媒介するので発生に注意する。

8) 斑点米カメムシ類

予 想 発生量：多（県下全域）

根 拠

- (1) 7月の早期稲の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は平年に比べ多く、発生程度も県東部、中央部で高かった。
- (2) 8月の気温は平年よりも高く、日照時間は平年並または多いと予想されているため、発生は多くなるものと考えられる。

対 策

- (1) 出穂期以降にカメムシ類の発生がわずかでも見られる場合、斑点米の発生が予想されるので、穂揃期及びその7～10日後に防除する。
- (2) ミナミアオカメムシの発生が見られる場合は、合成ピレスロイド剤の効果が劣るので、他系統の剤（ネオニコチノイド剤等）を用いる。

2 カンキツ（温州みかん）の病害虫

1) そうか病

予 想 発生量：平年並（中央部）

根 拠

- (1) 7月の調査では、発生面積は平年並、発生程度は平年よりもやや低かった。

(2) 8月の降水量は、平年よりも多い確率がやや高いと予想されているが、8月の降水量自体が6、7月や9月と比べると少ないことから、発生の増加は少なく、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

(1)窒素過多が発病を助長するので注意するとともに、防風垣などの整枝を行い、園地の通風をよくする。

2) 黒点病

予 想 発生量：平年並（中央部）

根 拠

(1) 7月の調査では、発生面積は平年並、発生程度は平年よりもやや低かった。

(2) 8月の降水量は、平年よりも多い確率がやや高いと予想されているが、8月の降水量自体が6、7月や9月と比べると少ないことから、発生の増加は少なく、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

(1)密植園での間伐、老木の更新、防風林の整備等により、枯枝の発生ができるだけ少なくなるように管理する。

(2)前回の防除から25日以上経過するか、累積雨量が250mmを超えると薬剤散布を行う。

3) かいよう病

予 想 発生量：少（中央部）

根 拠

(1) 7月の調査では、発生は見られなかった。

(2) 8月の降水量は、平年よりも多い確率がやや高いと予想されているが、8月の降水量自体が6、7月や9月と比べると少ないことから、発生の増加は少なく、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

(1)銅剤等の散布による予防に努めるとともに、発病がみられる夏秋梢を剪定、除去する。

4) ミカンハダニ

予 想 発生量：多（中央部）

根 拠

(1) 7月の調査では、発生面積は平年よりも多かったが、発生程度はやや低かった。

(2) 8月の気温は高めと予想されており、高温期には増殖が緩慢となるため、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

(1)薬剤抵抗性の発達を避けるため、異なった系統の薬剤によるローテーション防除を心がける。

3 カンキツ（中晩柑類）の病害虫

1) そうか病

予 想 発生量：多（西部）、やや少（東部、中西部）、少（中央部）

根 拠

- (1) 7月の調査では、県中央部を除く地域で発生が見られた。発生面積は、県西部で平年よりも多め、東部、中西部はやや少なめで、発生程度は、各地域とも平年以下であった。
- (2) 8月の降水量は、平年よりも多い確率がやや高いと予想されているが、8月の降水量自体が6、7月や9月と比べると少ないことから、発生の増加は少なく、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 窒素過多が発病を助長するので注意するとともに、防風垣などの整枝を行い、園地の通風をよくする。

2) 黒点病

予 想 発生量：やや多（中西部）、平年並（中央部）、やや少（東部）、少（西部）

根 拠

- (1) 7月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中西部で平年よりもやや多く、中央部で平年並、東部でやや少なく、西部では少なかった。発生程度は中西部で平年よりもやや高かったが、その他の地域は平年よりもやや低～低かった。
- (2) 8月の降水量は、平年よりも多い確率がやや高いと予想されているが、8月の降水量自体が6、7月や9月と比べると少ないことから、発生の増加は少なく、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 密植園での間伐、老木の更新、防風林の整備等により、枯枝の発生ができるだけ少なくなるように管理する。
- (2) 前回の防除から25日以上経過するか、累積雨量が250mmを超えると薬剤散布を行う。

3) かいよう病

予 想 発生量：多（東部、中央部）、少（中西部、西部）

根 拠

- (1) 7月の調査では、県東部、中央部で平年よりも発生が多かったが、他の地域では発生が見られなかった。
- (2) 8月の降水量は、平年よりも多い確率がやや高いと予想されているが、8月の降水量自体が6、7月や9月と比べると少ないことから、発生の増加は少なく、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 銅剤等の散布による予防に努めるとともに、発病がみられる夏秋梢を剪定、除去する。

4) ミカンハダニ

予 想 発生量：多（中央部）、平年並（東部、中西部）、少（西部）

根 拠

- (1) 7月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中央部で平年よりも多く、東部、中西部で平年並、西部で少なかった。発生程度はいずれの地域も平年以下であった。

(2) 8月の気温は高めと予想されており、高温期には増殖が緩慢となるため、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

(1) 薬剤抵抗性の発達を避けるため、異なった系統の薬剤によるローテーション防除を心がける。

農作物の病害虫防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

病害虫防除所ホームページ (こうち農業ネット)

- ① 病害虫発生予察月報、病害虫発生予察予報
- ② 病害虫発生予察注意報、病害虫発生予察警報、病害虫発生予察特殊報
- ③ 病害虫発生予察技術資料
- ④ 新しく問題となっている病害虫 etc.